

2024_0103「雄大な初極光（写真）」日々の理科 3436号

お茶の水女子大学 サイエンス&エデュケーション研究所 田中 千尋

「オーロラ」は、スウェーデン語では「Norrskjen（ノルシェン）」といいます。「北の光」のような意外とつまらない意味です。実際に現地のスウェーデン人の多くは、オーロラにはあまり関心を示しません。あまりにも普通に見えるので、慣れてしまっているのでしょう。一年で一番寒い時期にわざわざ日本からオーロラを見に来る旅行者は「クレージーだ！」と言われたりもします。

さて、オーロラは日本語では何というでしょう。答えは「極光（きょくこう）」です。正確には北半球のオーロラは「北極光」、南半球のオーロラは「南極光」となります。一年で一番最初に見えるオーロラは「初極光」ですね。

去年の12月はスウェーデン北部は非常に天気が悪く、ずっと雪が降っていて、オーロラはほとんど観測できませんでした。しかし現地時刻の元日に、ついにすばらしく雄大なオーロラが出現し、ほぼ一晩中見えていました。現地で年越しをした旅行者は、さぞ満足して帰国できると思います。

(2024年1月上旬／スウェーデン・ヨックモック郡・ポルユス／東京から遠隔観測)

